

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年3月8日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4679500126
法人名	インターナショナル・ホスピタル・サービス株式会社
事業所名	グループホーム 岬
所在地	鹿児島県大島郡知名町田皆2242番地 (電話) 0997-93-1502
自己評価作成日	平成27年1月30日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成27年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

県道から少し中に入り、静かな住宅外の中にホームはあります。一歩外に出ると地域の皆さんや子供達と声を掛け合うことができる環境にホームはあります。その環境を活かして地域に溶け込んで暮らす事を目的に開設当初から近くのゴミステーションの掃除を利用者と職員の日課として取り組んでいます。今では、地域の方々や子供達とも顔見知りになり、気軽にホームに立ち寄る関係が構築できています。岬の自慢は安全な散歩コースがあることです。車の通りも少なく静かな緑の中を通り抜けると溜池があり、溜池の周りには季節の花々が咲き乱れているので、季節を感じる事ができます。また地域のお年寄りの方が集まる場所となっているので、声を掛け合い、お話を楽しむ事もできます。ホームの近くには公民館・郵便局・ふれあい館・雑貨店・駐在所等々・・・字の中核機能が集まっている便利な環境に恵まれています。私たち職員は統一したケアを目標に掲げ、申し送り後に、利用者も交えてお茶を飲みながら、気軽に話せる統一したケアの為に10分間を設けて取り組んでいます。一日の業務のポイントを再度抑えて貰い、解らない事は気軽に聞ける場として活用しています。統一したケアの必要性は、利用者が日々同じケアが受けられ不安なく穏やかな暮らしができる事を目的に事業所として特に力を入れて取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、地域の医療の一端を担ってきた馴染みのクリニックを改修して開設されている。住宅街にあり、近隣には小・中学校、駐在所、保育園、公民館、商店などが集中した利便性の高い場所にある。

管理者を先頭に開設当初から、地域に溶け込む努力の先駆けとして、入居者も参加しホーム一丸となり近くのゴミステーションの掃除活動を地道に続けて来ている。開設10年が過ぎ、地域からの厚い信頼も得られるまでになり、今では、学校帰りの子供達が気軽に立ち寄り勉強をして帰るなど、地域の人々と気軽に行き来できる密な関係を築きあげている。

ありのままの利用者を受け入れ、不安のない穏やかな暮らしの支援は、家族からも「丁寧で温かい介護、温もりのある介護」などの感謝の声が届いており、理念に添ったケアが日々、実践されている様子が伺われる。

管理者を中心に、介護部長、職員は常にケアの統一を図り、意欲的でコミュニケーションも深く「職場が楽しい」との声もきかれる程で、その事はサービスの質の向上に繋がっている様子が伝わってくる。

職員体制にゆとりを持ち、外出や個々の希望に添った個別支援にも力を入れている。利用者と職員が一つの家族のように穏やかにゆったりとした生活を送っており、地域に見守られながら、正に地域密着型のモデルとなる心温まるホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念を作り揭示し、朝礼後に唱和することにより、理念に触れ職員間で共有し、日々実践に繋げる様に取り組んでいます。	理念に掲げている「温もりのある介護」は家族にも伝わっており、感謝の声がある。ありのままの利用者を受け入れ、職員全員でケアの統一を図り、日々理念に添ったケアを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	利用者と職員で、近くのゴミステーションの掃除を日課とし、日常的な付き合いが持てる様に努めています。天気の良い日には散歩を日課とし、事業者側から声掛けに努めています。	開設時よりゴミステーションの清掃活動を続けており、地域との交流につながり信頼を得ている。地元出身の利用者も多く、地域住民の気兼ねない来訪や野菜の差し入れ、子供たちが立ち寄り勉強をして帰るなど日常的に地域の一員として自然に溶けこんでいる。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域の会合に参加し、認知症予防や認知症の方との関わり方等々のミニ勉強会も行っています。地域の方に施設の情報提供をして理解して受け入れて貰える様に取り組んでいます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業所の報告と共に参加者からの意見、要望を聞き、話し合いの場としています。そこでの意見は、サービス向上に活かしています。	家族、地域住民、行政、他の参加を得ての定期開催である。ホームや行政からの報告、情報伝達を基に、参加者と和気あいあいとした雰囲気で見聞交換を行っている。ホームは地域の介護の相談所にもなっており、地域と協働の関係にある。出された意見やアイデアはサービスの改善に繋げている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	<p>○市町村との連携</p> <p>市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>町の担当職員にホームページの情報を知らせたり、事業所報告を行い協力体制が出来きる様に心掛けています。また情報や助言はサービスの質の向上に繋げる様に取り組んでいます。</p>	<p>運営推進会議への参加の他、保険福祉課とは日頃から相談や情報交換などの密な連携が執れており、運営向上に繋がっている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>グループホーム協議会の研修会に参加し伝達研修を実施し、事業所独自の勉強会も持ち理解を浸透させて、身体拘束はしない様に取り組んでいます。見守りで安全な生活を送れる様に取り組んでいます。</p>	<p>日常の言葉使いや声のトーン等には特に注意を払い、おしめの仕方やマットレス、シーツの清潔保持など細部に関わる事項にも職員一丸で取り組んでいる。時間のリズムを考えて、車椅子からソファーで過ごす時間も大切にしている。内部、外部の研修を通して職員は身体拘束に関しての意識、知識を高く持ったケアに努めている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、虐待をしない又見逃さない様に注意を払い、見受けた時は、その都度話し合っています。理解を浸透させ虐待防止に努めています。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>権利擁護・成年後見制度に関する研修に参加して学んでいます。必要と思われる利用者がいたら活用できる様に支援して行きたいと思っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約を結ぶ際は、利用者や家族方の不安や疑問点が無いか聞き十分説明を行い理解・納得をして貰い契約を結んでいます。利用料・重度化・医療連携・ケアに対する事業所の取り組みについても説明しています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常生活の中で利用者の思いや希望を職員は耳を傾けて対応しています。家族の方の不満や要望は管理者や職員に話しやすい雰囲気作り対応しています。また外部者へ表せれる機会も設け、利用者の暮らしに反映しています。	家族会や面会時等、意見や要望が言い易い雰囲気作りをしている。オムツ使用の削減に対する要望や料理の味加減などの気軽な相談やアイデアが出され、サービスの向上に繋がっている。外部に申し立てる第三者委員会の設置も重要事項説明書に明記してある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に話せる時間を設け、職員の意見や提案を聞き、その日落ち着きのない利用者をドライブや買い物へ連れ出したりして職員の仕事の軽減に努めています。	毎月、全員参加のミーティングを行っている。業務に関する意見やアイデアは前もってメモにとり会議に活かし改善に繋がっている。定着率も良く「職場が楽しい」との職員の声はサービスの質の向上に繋がっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が、働きやすい職場環境にする為に必要物品を購入したり要望を聞き、話し合いながら対応しています。勤務作成も希望を聞き取り入れています。その後勤務作成をしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人は働く中で学ぶ事の必要性を理解されており、業務に支障きたさない限り研修の機会を与えてくれます。事業所外で開催される研修には、なるべく多くの職員が受講が出来る様になっています。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>島内・島外の同系業者との交流もあり事例を通して経験上の助言を貰い参考にし、また島内のグループホームの交換研修の場もありサービスの質の向上に繋げる様に努めています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談を行い、心身の状態や生活状況を把握し職員間で共通理解して、受け入れる様になっています。不安や要望を聞き信頼関係を築き安心して利用できる様に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始する段階で家族の困っている事、不安な事、求めている事等々よく聴き受け止める努力し、より良いケアに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に繋がる様に努めている	相談を受けた時に、本人と家族が(その時)まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に繋がる様に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人を介護される一方の立場に置かず一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし本人から学んだり支えあう関係を築き穏やかに過ごして貰える様に努めています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでの本人と家族との関係の理解に努めより良い関係が築いていけるように支援しています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が、これまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が断ち切れないように、馴染みの場所へ出掛けて、馴染みの方々と、会う事が出来て、喜んで貰っています。	地域出身の利用者が多く、ホームから歩いて行ける距離に自宅があることから、馴染みの友人や知人と会う機会も多くある。地域の老人会への出席やホームで共に暮らした友人の墓参りに出掛けたりしている。ホームは、以前、地域のクリニックだった事もありホーム自体が馴染みの場所にもなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係を把握し、ひとり一人が孤立せずに利用者同士が関わり合い支え合える様に努めています。利用者同士の関係が上手く行く様に職員が調整役となって支援しています。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス（利用契約）が終了しても継続的な関わりを持ち利用者や家族との関係を断ち切らない様につきあいを大切にしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、利用者の思いや意向を把握し、言葉掛けや家族からの情報を基に職員間で共有し、本人の意向を中心にケアに活かすように努めています。	殆どの利用者が意思の伝達が可能であるが、困難な場合には長年培われた信頼関係の中で、所作やアイコンタクトで汲みとっている。難聴者には筆談や黒板、メモ紙を活用し、職員間での共有を図り、一人ひとりの思いや暮らし方の希望に添える様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ひとり一人の思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めています。言葉や表情から真意を察する様に努め、ホームの暮らしは、これまでの暮らしの延長であると考え支援しています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者が望む一日が過ごせる様に心身の状態を把握し、出来ない事よりも出来る事に目を向け個々の力に合わせメリハリある生活を心掛けて取り組んでいます。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人が、より良く暮らすために課題分析により抽出された生活全般の解決する課題を分析し、本人・家族・職員と話し合い、それぞれの方の意見を反映してその方に適した計画書を作成しています。	利用者毎の担当職員を決め、密な情報で個々の課題分析に取り組み、利用者や家族の希望を採り入れた個別性のある介護計画の作成になっている。家族が希望した散歩支援も組み込まれ喜ばれている。起立運動やトイレでの自立に向けた排泄など、利用者の自信や誇りに繋がるプラン内容になっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>個別にファイルを用意し、食事・水分摂取量・排泄等・身体状況及び日々の暮らしを記録しています。記録に目を通せば体調の把握出来る様になっています。昼夜色分けをして見やすい様に工夫しています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしています。外泊の際に家まで送迎したり面会へ来られない、家族には時折、連絡取り連れて行き会って貰ったりしています。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>利用者が安心して地域の中で暮らして行ける様に、必要性に応じて民生員やボランティア駐在所、教育機関等と協力しながら支援しています。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>同系列病院と決めつけずに、ご本人及び、家族等の希望を大切にし、利用者と家族の希望のかかりつけ医で適切な医療が受けられる様に支援しています。</p>	<p>希望の掛りつけ医の受診支援をしている。受診の際には、情報提供をするなど、家族とも診察結果を共有し、常に適切な医療を受けられるように支援している。認知症の専門医の受診は母体医療法人と連携が執れている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>訪問診療の契約に基づき、日常の健康管理や医療面での相談・助言を気軽に話せ、利用者をよく知る看護師で利用者が適切な受診や看護を受けれています。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院によるダメージを極力防ぐために医師と、相談しホームで対応可能な段階で早期退院が出来る様に、ご家族とも情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けています。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>重度や終末期の利用者が日々より良く暮らせるために、事業所の出来る事や出来ない事を見極め、かかりつけ医師や訪問看護と共に支援に取り組んでいます。また終末期ケアに当たる職員への理解も重要視し、家族協力も得て共にチームで支援に取り組んでいます。</p>	<p>重度化した場合や終末期のあり方については入所時に説明し、段階に応じた家族との同意書を取り交わしている。これまでに数名の利用者の看取りを経験し、顔写真も大切に保管されている。支援経過に詳しく記録を残し、ホームで出来る最大限の支援を職員一丸で取り組んでいる。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>同系列の病院の勉強会へ参加したり、島内の研修会また独自の勉強会で定期的に勉強会を行っています。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や地震の際の避難訓練を地域の方も参加して、昼夜を想定して年2回行っています。漏電や消火器の点検また職員でプラグ周辺やホームの外周りの掃除を定期的に行っています。災害時の食料や水を備蓄しています。	火災や地震時の訓練を昼夜想定で年に2回行っている。地域住民の参加も得られ、見守りなどの役割で協力体制も出来ている。自主訓練ではホームの周辺の見回りや備品の点検なども定期的に行い、常に利用者の安全で安心な生活を支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の尊厳やプライバシー保持についての研修会に参加したり独自の勉強会も持っています。プライバシーを損ねない言葉使いに配慮する様に努めています。	法人や内部の研修会で職員は人格の尊重やプライバシーの確保については知識や意識を高く持っている。特に排泄時の誘導や言葉使いなど羞恥心やプライドへの配慮を重視している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望に沿い起床や就寝・食事や入浴は個別支援をしています。意思表示の困難の方は表情から読み取ったり文字盤を使ったり筆談したり自己決定出来る様にしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人が、その日をどの様に過ごしたいのか希望に添える様に努めています。出来るだけ個別支援に努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	本人の希望の服が着られる様に更衣の際や入浴時の準備は利用者を選んで貰っています。本人の望む髪型にカットしています。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の食べたい物を聞き料理しています。野菜炒めの多いのもリクエストです。ホームの小さな菜園の収穫の野菜の下ごしらえや茶碗拭きを職員と一緒にしています。	旬の野菜や差し入れの材料を勘案して、栄養価も考慮しながら利用者からのリクエストに応じた食事を提供している。食器もその日の気分で替えている。手伝いの可能な利用者は台所に立ち茶碗洗いや炒め物をして役割に張り合いを感じられる様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量・水分摂取量は、ひとり一人の体調に応じ対応しています。記録し摂取量が確保出来る様に努めています。飲む量と排出する量のバランスにも気を付けて対応しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きの声掛けを行い、本人の力に応じて見守りや介助を行っています。口腔内ケアの重要性を利用者と職員が理解し習慣化されています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレ排泄の自立に向けて排泄パターンを把握し個々の利用者に合わせて支援しています。利用者のタイミングを見ながらトイレ誘導を行っています。清潔保持と褥瘡予防に努めています。	ポータブル使用の利用者はおらず、夜間帯もトイレ誘導で対応している。個々に応じた長・短の時間誘導で意思の確認を行っており、トイレでの排泄の自立に向け現状維持や改善に向けている。トイレのドアは閉めると恐怖心を抱く利用者の為に長めの暖簾使用の配慮もしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	植物繊維の多い食材を使う様に心掛け、毎日牛乳を飲んで貰っています。運動を日課としています。水分も多めに飲んで貰える様に工夫し自然排便が出来る様に取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は決めてありますが、利用者のその日の体調や気分を見ながら、また時間を置き声掛けしたり柔軟に対応しています。	基本、入浴回数は決めてあるが、利用者の体調や希望に応じた柔軟な対応で、無理強いすることなく、リラックスした気分で入浴を楽しんで貰っている。リスク対策として見守りも重視しながら2人介助で支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動を促し、生活のリズムを整え、寝付けない時は職員と行動を共にし、飲み物を飲みながら傾聴に努め不安を取り除くように支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的や副作用、用法や用量についてはファイルに綴り何時でも確認できる様にしています。服薬の服用後は症状の変化にも注意し、変化の際は管理者へ報告する様にしています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ひとり一人の力を発揮して貰える様に、その方を見極めた上で役割を与えています。利用者同士話し合いながら遠出のドライブや散歩に出掛け気分転換等図っています。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、日常的に散歩に出掛けています。全員で出掛けたい時には地域の方の協力を貰い支援しています。利用者の希望を聞きお墓参りや買い物に出かけ、個別支援もしています。	ホーム周辺の散歩が日課になっている。車椅子の利用者も出来るだけ全員参加で花見などにも出掛けている。人員配置にゆとりを持たせ、管理者が中心となり個々の希望に応じて海辺のドライブや肌着、菓子等の買い物など個別支援にも力を入れている。「まず、利用者が一番」との利用者本位を最優先した管理者の強い思いが感じ取れる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ひとり一人の力に応じて、本人管理できる少金額で日常的に、好きな物を自分の財布と相談しながら買って貰える様に支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	ペンや便せんを準備してありますが最近はメモ帳として使っています。利用者と話し時折、電話を掛けて声の便りを聞かせせる様に支援しています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が長い時間を過ごす共同空間を心地よく過ごせる様にソファを置いたり、壁には季節感を感じて貰える様に利用者と職員で壁画を作り飾っています。玄関の近くに畳の間があり面会者と利用者の語らいの場や読書の場として使いやすい静かな空間で過ごせる様にしています。	広々と明るい共用空間の壁には、季節を感じる利用者の作品や写真、孫から届いた作文なども貼られている。トイレのドアは長めの暖簾に替えるなど、利用者のリスク管理や安心感への配慮をしている。窓辺の一角には趣味の読書や面会時の語らいの場としてゆったり過ごせるスペースの工夫もある。死角になる場所には大型の鏡を置き、常に利用者の身見守りに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中にも、小さなテーブルを置き、ソファで座ったり、仲の良い利用者同士が集う場所を設けています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたタンスや本人が以前使っていた品々は全て受け入れ持ってきて貰っています。利用者が居心地の良く過ごせる様に本人の思う様に家具の配置も決めて貰っています。	家族とゆっくり過ごせるように椅子やソファを置いたり、馴染みの筆筒や時計、家族写真を持ち込んでいる。位牌を置き花や食事をあげ、故人を忍ぶ利用者もおり、それぞれが個性があり、ゆったりと安心して過ごせるプライベート空間になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の持っている力を見極め、職員間で話し合いながら自立に繋げる様に努めています。目印しで居室が解る工夫や手すりを使い自立できるように工夫しています。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない